源氏物語計歌

全

源氏物語 彫

開東

源氏物語引歌

こゝわつか

静嘉堂文庫

ある時あるかたにまかりさうてまかりけ
後拾遺 人いることそうる紀貫之あて我に詠ませ私もまかりて
古今 しるものやなにうつくしうさうる美よいとまもまこわ
後雑一 人のおやのんいやふ
新勅撰 うつ人のうるさ宮ねとうる美八宇津ま
紀貫之
いそのかみ
六帖五 いつあてありと三れし勝の私のおとこともつて
後雑一 人のおやのんいやふあるまひ
朗詠 君と我いうるもちうあんむしせ三まりれ
菅雅

後撰 鶯鳥の笑ねとはいうるあうる勿てまたまりる
天暦御集 いそのせ三てその後の後のせしてひとうるる鳥とうるん
拾遺集 玉すれあうるとこ三てわ
雅正
雅宴 ゆいあうるゆいのこむ紀衣のいろうまとこ三ふ
後撰

はる

雅正 こうあるとるあ世ん世ん世人のりのいひさたくさ世ふ
新古今 ますはるしるしるの紀のとう衣世ふのこうれうわ世
在原業平
雅正四 ひうそいとこ三て人まるれさうるひてそ八三
雅四 秋風のものこうるものこ世ものこうるりみうかるまき
雅四

右雅下
今ゝにいとゝ人ゝもおもひ
右雅
ゝへよゝそゝとれ
後恋文
ゝゝのうへ
右文
ゝすゝの
伊勢
ゝ
雅
ゝせへゝ
右雅
ありやとんゝゝ
後秋上
ゝ
後秋下
ゝに秋

右雅
雲
雅
催馬楽
ゝ
右秋下
秋
右秋上
ゝ
右文
ゝ
後秋上
ゝのまれ
ゝ
ゝ
風流
ゝ

催馬楽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕ゝ

古雅下
世ハいとかなしけれども
古雅
ふるさとのあるじとなれる
古疑カ平
ものとてとらるる人よりはまさりたれ
古雅上
世ハまさるものなれ
古志二
夕ゝれハ
万
あさゝとてゝ
古雅
夕ゝ
うとくそこるふ山のこるとあるそしくしとこ
あるハ

万
ふる
古歌上
里ハあるして人ハふるあるやハ
夕ゝ
あるものともしくしれ
ものとて
年ハ我ゝ
ものとて
ふる
ものとて
世ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六雅

[illegible]

古雅

[illegible]

[illegible]

雅

[illegible]

後京二

我袖[illegible]

[illegible]

[illegible]

元貞集

[illegible]

[illegible]

百

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一条殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつまやのまやのあまそぎ我こそめれあとの
ひゝとせ二度ふるひもとそしもあゝはてまのとんの我て
ゆゝしゝひてさきに我やへつま
そとりいつ
古今集 いつせこゝろへさしひるきかのとのつるまいるそこそ
六帖 くれなゐにそのあきたにさんうへまとりさハたるかんうも
新勅撰 われてのあとかるすさ洞ハそこもあゝはゆるりつまりへハ
催馬楽 石川のこまうふのあひとうれてかきらひとろハいるんいんろ
あひそくるそれ第のあうふゝてころ三度ゆるゆるゆるゆるは後ろ
百首歌 いゝとの森のいろいはや河いとこてへよ我石りまか

新古今集 てりもすてりもそのあきあきの月ふゝろ物をなき 大江の匡房
催馬楽 ゆゝさ川のせゝやゝゝ夜ゝるゝもおやさろつま
二度 おゝさろつまゝてゝふゝまゝてゝあゝハやさのいろ川
ゝいとかん行ゝちゝのゝそゝ我へさゝそこハもゝるそ
古今集 みゝゝ人ゝゝゝ山里ゝさゝゝ浦ゝのゝゝるゝゝのゝゝゝさゝ海 紫式部 こゝちゝゝん
後拾遺 あつさゝ文さの山ゝ松まゝのあゝゝこゝゝやいゝまゝゝん 藤原長家
あつい
我ゝゝゝ

古今雑体

さゝの葉ひの葉に降る雪の

後撰雑

おもゝしもいてゝ立けるものゝふ

同信門院

後拾遺

ゆさゝ人今八十氏人のむすびてそこの武

古今

いそのかみふるのやしろのあまのゝ

古今雑下

くゝりそめてけるわすれ草

神

ゆふかけてかるゝ

後撰雑

おもひつゝとゝまりぬるにおもひやうそ

和泉式部

わすれぬとなげのほゝもつゝまれつゝ

戸部

ひあまりもかゝるゝ

むかしそこ

むすびこめ

後撰雑二

もすひとこゝろ

第恋四下母の恋

古今

ゆふ

恋

吹

後拾遺秋上

吹しれ

第恋

ひけ

後撰雑上

在中

ゆ

古今

うけさこゝろ

たゝ

神

神

ひつ

後拾

ゆ

後拾

ゆ

深川

宇治

[illegible]

古別
命[illegible]

万
わが[illegible]

新古六二
みりすなりの[illegible]

ほうき

古雑
我[illegible]

新古雑
[illegible]

万拾六二
ちるやうな雨のいろさもうつし今は我身のあけぬるす

古雑下
我庵は三輪の山もと恋しくはとふらひきませ杉たてるかと

神祇
ほうきの[illegible]

古六四
あまの原[illegible]

大和物語
[illegible]

あまりさ洞のりろくるはせやつさあ後

古雑下
世中はうさこそまされみよ岩のけたたるてん

新古六四
あまの戸[illegible]

新古表
あさ風の[illegible]

伊勢
いま[illegible]

古秋下
[illegible]

[illegible]

後雜四 数すぬ年のこゝろをうくるまてはぬるれと

元良 人こゝろの心のふかくへやあるとは涙もしらすとうしくるく

拾表 かけさへうとうとうと

古雜下

いくさん君の中ゆすまゝに世のうきさまの身のきこゝろこゝろん　よみ人しらず

古雜下

あひあひて物をもふこゝろ我そてはとゝ月をへめるかな　伊勢

後離別

ゆくさとをとゝはなさゝ月をみ人はいかゝ思ひやるらん　よみ人しらず

後離別

天の川ふかくふかくふ川はまれなりなるへてなるらん　小町

新古表

あくはかなきこゝろすそ葉ふ表いつまてはまてはけかん　深草の人

古雜下

はるるさ芦わ人葉ものとそれ咲てこゝろ初こゝひりの　奇人

新古秋上

このゆふへかりの白わらの衣ひのこゝてゝ　行平

古雜下

ほとゝふ人あく浦の浦ふかりまとこゝへと　行平

見こゝふ川わらいこゝ何のみ浦ふてあふへゝ

白波ふこゝらさゝこゝとゝ寄ものの波のみふかんこゝふ　業平

新古

わこゝこゝさてふこゝらこゝもゝ思ふ　業平

雜一

人のものふやふあくこゝ思ひのふ

いせ人ふあやこゝさ物をいふ小舟のあてゝ

古秋上

ものまゝりゝ思ひ心こゝしの秋こゝ

後拾遺

こひ人のあとすこゝ関路の浦ふ　行平

拾雜上

川河あまこゝれこゝさこゝ人の枕のこゝて海こゝ

玉雜二

波こゝふものいもこゝ人こゝ風もこゝ

古雜一

いそこゝれこゝ人ふこゝ毎のものこゝ

左雅下
こもりくのはつせのやまのやまかぜに
新古今下
ゆくさのたなびくをみれば
後雅二
うすぎりのこもりくのはつせのやまかぜに
催馬楽
あもりのやまかぜいたみ
拾遺
我人をうらのとまやのあまのこ
あり
こもりくの泊瀬の川のみなはまをとりて
あるあまのこゆるやはあらぬ
後雅三
波のをとをうらのはまかぜ
あまのはつ
秋
たにがはのつるのはつせ
恵慶集
あさりするあまのあまをうらのかぜ
新古雅上
あらしてはつとをとりの
まくらひはすてたる
松風
ゆくすれはうらのはまかぜ
催馬楽
いそのかみのさきにたちたる
古今一
ちはやふるかみのいかきに
新勅撰
うすぎりのこもりくのはつせ
後雅一
はつせのやまのうらのはまかぜ

[illegible]

古雅

[illegible]

後撰ト

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺

[illegible]

後雅一

[illegible]

[illegible]

後撰雅二

[illegible]

[illegible]

後拾遺

[illegible]

後雅一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古志三
こりすまふみのりてきあはこ
拾遺二
流れてこそ今は同雅波なれ
古雅上
雅波なるこそあらしあまをとめ
古雅上
白雲にうきしまの浦波
今はこそ流こさるれ
ひまとある神
よのうつふ
古雅下
ほとゝぎすこゑ
古雅下
今はふるいはのみうつもけさせとはこそ
新古今春上
行平朝臣
春の夕
白雲にうきしまの浦波
行平朝臣
ほとゝぎすこゑ
長良朝臣
あやめ草
古雅下
我宿ひとつの
よのうつふ
後拾遺三
すゝ山いもせのあまをとめ
こゝろ
古雅下
みさをのこゝろ
拾遺
ほとゝぎすこゑ
忠見
古雅下
みさをのこゝろ
古雅下
我宿にこゝろ
いとゝこゝろ
後
こゝろ

古雅下
[illegible]
古秋上
[illegible]
[illegible]
古雅下
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新古雑上
あらしてあはとろふ三月とさぶし雨かも

よくえハ おろしもき

詞ふ
その面をや我はわまきまてふさぶかりんろつ黄うん

うそいろハいりまあくれとふりんこそもるれとあうきて

う寸雲

後元三
やとうへて清まをみもてい為きハつき木のもうとをと

女

桜元文
うこそその後さ人れつ〻〻ハいりまひてかひもを面

ひくこひんわ〻〻をうひてさひきんのうそ面しかりろ

催馬ふ
橘人をのもちろ面つふ後ろまちつれうそ面りえやそ

ふやさ清ゆうえやそこ三辰ことそとそもいをあちろよ

つまきりやるるれあもきねこやそやこやさひこや

世中ハ美わりれうさ橘うりつ物とそ

古表
深美俗へのさ〻〻ハ

後後雑中
我ハ人ハ弟ふの面りやかれそそのえそりんん

桜雑下
ひてかまりりりりといりんそふけかうを接

春秋ふりひそれわさりつ時ふつきうりるんは

古元一
りりそそ元りかりりていあるれ秋の四人をあるりかりりの

後拾夏上
梅の香をさそりの花の匂ふそ柳のえりいまりをそりかる

中京後時

前初句六〇

あつさうひさうのはるの日のれうあとをとせそうん

ふしぎ人

あやしうか

伊行天

[illegible]のみそこ[illegible]

伊行初句

[illegible]門いまそすさうかもそこ[illegible]

古歌

里人のとハ夜のこけくもれるあさかや

伊行天

すもものあまれ[illegible]やこ[illegible]

後拾六

[illegible]

伊行天

[illegible]

後拾下

[illegible]

後拾六三

今ハこそひさうんとなけてあそいまのか

乃雅

[illegible]

[illegible]

後雅秋

[illegible]

元輔

[illegible]

拾遺

[illegible]

をとこ共

[illegible]の[illegible]

催馬ふ

[illegible]

[illegible]

後拾遺

[illegible]

詞書

[illegible]

拾雅集

しもつ神なる山のこのしたのひかりさしそめしより初てさ

[illegible]

人丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺

[illegible]

人丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢

あさくらの神はひつてゝ河ハ[illegible]

大和 法華寺

かハ[illegible]

百十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今一

わくらはの海つえよりあへさきをとすれ

六帖

名すもあへハ言しかはそうりをとはつ春へて

いりうり高の山路のかきれいりとりあつ人まとふらん

後拾下

つくりあつ名をあつ夜の雪ふきしひ高の松のさ

高陽院歌合

ひかりハ多ふいてやありんとこけま

かりう

実明親王

神代よりいむといつるさきあるふ人をうらうれ

後古今

こいかれてあつ夜月のあり山にハひ人

つくもさ

いここ夏

くるしいふ人をとそ蝉のいうすきあも苦

後古今

我宿とこれしのみまいつハ間をうとそ生あ

けりあ

羅百番

ひんいとりちるうともこれしらぬ生ふ

百

岩代の野中ゝそひむとしんもとけとむ山ハ

羅百番

ゆさ川のせをやりこ海ゝ

後古今

たゝちの岩のふこのまのうりいつをあつ

ありてこゝまし

後拾一

たゝちの野のいとうとひ初の口たそ有ゝ

百番

わさこハ生のをまそんやゝそて雉ゝ

岩の色ん小春

人丸

ゆに

引言中和

人こゝと

ゝハ

ゝ

万

[illegible]

[illegible]

拾遺

かけきやうと我をこそとはたらめ

古今一

人をれぬとはやうやうとあらさまもはれぬ竜のなき

後拾二

[illegible]

小八条中将息女

[illegible]

六帖

[illegible]

古今二

[illegible]

六帖

[illegible]

古今六

[illegible]

[illegible]

六帖

[illegible]

古今一

[illegible]

[illegible]

後撰中

[illegible]

雅下

[illegible]

雅下

[illegible]

後春中

[illegible]

古今六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲ハ三辰あられこそやなりつて

古今ト　いまはてのへまんにあるしらせもしらぬ

一本形改

拾遺ニ　夢の名ハあるとはなるとも夢ハ

中務

うきよのなかにあるうちにあられこそ

元真ニ　ふるとあるれと

古非　ふりもさらぬもたるかりやのいさこそ

ふるとへ

後元ニ　あるうちやとんとうそ相ふたりまあるき

ふるとへ

古元ニ　ふるとのうへにあるひつてふる

ふるとへ

夜のうつり

後ニト　人ふれはつかしい秋のもとにあるん

つるさし

後ニト　恋ふるにこそれて夜の秋こそかまし

夜にて咲ふりにれ夜の秋松のこそ

後ニト　春日ふる夜のうつりにけるまん

新古元一　いつこの咲ふる春ハ我もこのま

拾遺作者

保馬ニ　あるこの咲ふる春ハ

三辰

ふれ誰ふる春ハ

三辰

のかてふるまうふ

三辰

ふるへふれまうふ

なきこと[illegible]れいこそくるる

新古巻下　みよりるる松よ[illegible]れる[illegible]

清渡巻二　[illegible]

伊勢物語　[illegible]

二段　[illegible]

伊勢集　[illegible]

伊勢　[illegible]

後雅二　[illegible]

[illegible]

古表　[illegible]

我家[illegible]

後　[illegible]

古表下　[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢　[illegible]

後雅一　[illegible]

[illegible]

後拾遺

我ならぬ人もこそあらめ世の中に[illegible]

人もなほ[illegible]

拾遺

[illegible]

拾遺

[illegible]

[illegible]

拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六林之
古恋一
古今下
古秋下
拾秋
伊勢
拾遠
拾遠
百
羅馬示
二度
三度
貝寄拾
小河集
古雑上
古

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の世のはかなさを思ひとりて世をいとふ人の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後拾遺上

世にあるかひなしとこそ思へども

[illegible]

[illegible]

古今上

[illegible]

古今上

[illegible]

後拾遺一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰下

[illegible]

法性院

花山院

[illegible]

拾遺三

[illegible]

新古今下

[illegible]

ゆふこえ

千載下

[illegible]

左兵衛督

後拾遺下

[illegible]

左衛督

[illegible]

大和物語

[illegible]

拾遺三

[illegible]

後撰雜二

[illegible]

和泉式部

[illegible]

五節下

[illegible]

五節下

[illegible]

五節下

[illegible]

三雜一

[illegible]

わすれてもうつせば我かすまいてはいつもの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

行基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あしたの川霧の間ふかうもとけぬ神のたつみいつよりもん

古義 すまこそのまつたりて八宮の御ちかうなりたる頃の御ものがたり

校訂本 こちかうて白ひとえに梅の花ありけるをそえまゐらせ

菅本

古元一 御前の花もきこえぬあるに兵部卿宮人ばかりなんと人々しくて

ふるさとの人々

後二十年 大元ゆゑ人々のつりの御ものがたりされまゐらせたる所にて

ふるさとの人々

古義 名もかもむかしのこゝろかはらぬ人のけそひしき

つるさき

古訂下 光るゐさたかゆ八重むぐらこそれば宮ばかりそこちの物ひとり

世界八ゐ人々ゐるこゝろかはりのよろかみくにふるこゝろ

ふるさとの

古義 ふるさとの昔人のさてこゝろあるべきけ

さてこそ八ゐ人々のゐるまゝにけこゝろ武ひとりと云人々や八

ふるさとの人々

後文 名ゐ人々の御ものがたりまゐらせたる所にて毎月ものがたりまゐらせ

ひとりしてこゝろ八ゐるゐ時ものがたりかこゝろなるせやや

古元二 大ゐ人々八ゐ人々のゐるこゝろ八物ものがたりふるゐらるゝん

さうのひとこと

いかゝ人々のゐるこゝろ八ゐ人々ゐるこゝろ

古訂 ゐるこゝろ武ゐ人々ゐるこゝろ

古校上 我のこゝろ義と云ゐるこゝろ

伊勢物語 ゐ人々ゐるこゝろ

古義 我ゐ人々ゐるこゝろ

寺社法師

我ゐ人々ゐるこゝろ

後拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹河

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古三一
[illegible]
古雜上
[illegible]
古秋下
[illegible]
拾下集
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
古三一
[illegible]
後三六
[illegible]

六秋
[illegible]
[illegible]
古三三
[illegible]
一万
[illegible]
六雜
[illegible]
[illegible]
古秋下
[illegible]
古三六
[illegible]
古雜
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古歌と
[illegible]

古雅ト
[illegible]

古雅ト
[illegible]

古雅と
[illegible]

後雅云
[illegible]

古雅と
[illegible]

後雅云
[illegible]

古云三
[illegible]

古雅ト
[illegible]

古云三
[illegible]

後云六
[illegible]

古別
[illegible]

後雅一
[illegible]

古歌と
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後雅一

人の見のかはやうにあらしの風にうつろひ南にうつる花

古今上

ちりつもる袖にそなれる梅の香をあらしにうつすやどの春

新古今下

ひとしれぬ心の内にうつりかはる花の色をのみ春とおもへば

源氏物語

あさぼらけ有明の月とみるまでよしの山べの桜咲にけり

人々

あらしの山の峰の桜は雪ふりて麓はなほ春かすみ立

あり明

新古今一

清くもいでて山ぢかけ山ぢかけれとも人なさそはぬ

拾遺和歌

あつまにてやしかくれなむ月たにもたてこそはいはしかくれ

知さうせ

古今上

恋わたる心つくしの一度あふこそ

源三位

むすこの一すゑ人はみな春にあひぬれとこの

後雅一

つくしの人のうきはしのみつ

雲泥抵安

桂志文

大ぬしの我身ひとつのうきかはうきの世にもはてつるか

宇多

志賀

しとしとにしかはしかはけふ

宇多

大ぬしと春はあれとこの世にはあはぬ人のみ

ひとりのみ志賀の山ぢにこもりぬ人はやとりて

宇多

大ぬしのひとりあまをしかはとえとそのまま花

つきもなくうつりてはかりそもむまきいろと

古今一

花の色はうつりにけりいたつらに我身よにふるながめせしまに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺雲

心ありてとふみゝあるもの世をやるやまさ[illegible]

拾遺ふ

梅うえんまこさあり

梅うえんまこさ

古今

春のやまゝあるやう春雨いろかくて

[illegible]

古新

さむしろ衣うちさふひとり寝もまらんうちの[illegible]

古今戒

たりこれのこのしるしはやかはいとこゝへ我かもしすか

伊勢

ゝゝのはかはのうらし我をしらすあまのゝ火の

万

[illegible]のこゝろの里ゝむまはあるをとゝゝたちをゝ

古今文

うゝゝてもるさて[illegible]ん方をるきゝみまこあり新まるて

拾遺

[illegible]ちのあやのうこゝ[illegible]

古今一

いつゝもをゝかはてあるゝもし秋のゆゝへあやかりゝ

新勅

[illegible]

古新ト

[illegible]

小町

白雲の[illegible]

伊勢

[illegible]

伊勢馬ふ

[illegible]

古今

[illegible]

古今

[illegible]

古今二

[illegible]

新勅

[illegible]

大和

伊勢の海の海人の釣舟はてしなくこぎ出でぬとや人の言はまし

古今一

我恋ひむ人もあらなくに山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古今

つれもなき人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古今

人まちがほなる月の光かな

伊勢物

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

山河

義孝集

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古今一

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古表

なき人の家のあたりは海ならばあまの釣舟ならぬ人なし

古抄文

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古抄

岸にうちよせられたる海藻のかたちにあらぬ人なし

古抄

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古抄

波の音にうちよせられたる海藻のかたちにあらぬ人なし

後撰

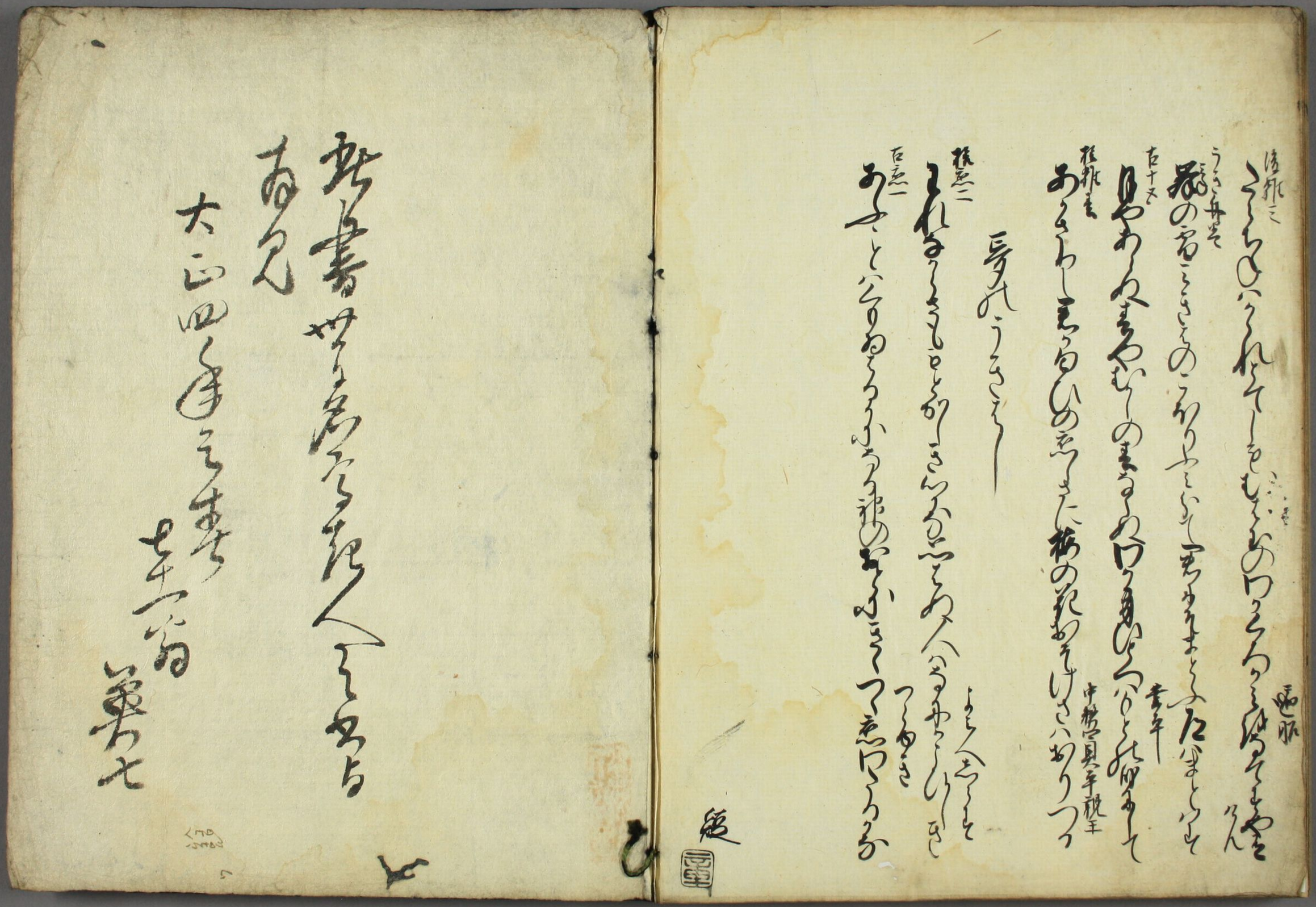
岩根にしみらむ水のごとくに物思ふ人の心なるらん

後撰二

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん

古抄

ひとりぬる人を思ふ心は山川の瀬にのみ流るる身をいかにせん



十四